

[平成22年度普及に移す技術]

[技術名] 収量はクサノホシ、リーフスター、北陸193号が高い

[要約] 飼料イネ10品種中、倒伏程度は「北陸193号」と「リーフスター」が低い。黄熟期の乾物収量は1.2~2.4t/10aで「クサノホシ」が最も高い。単少糖含量は乾物中1.0~5.6%で、単少糖含量とサイレージ調製後のV2—スコアには高い相関がある。

[キーワード] 飼料イネ、倒伏、収量、糖

[担当] 福井畜試・家畜研究部・資源活用研究グループ

[連絡先] 電話 0776-81-3130 電子メール s-yamada-jd@pref.fukui.lg.jp

---

[ねらい]

本年度は飼料イネの生産面積が拡大しているが、主に食用品種のため収量性が低く、また刈り遅れ等による品質低下を招いている。そこで、飼料イネ専用品種の栽培、調製時の重要な特性である生育性や収量性、出穂性、糖含量と発酵品質について調査し、飼料イネの品質向上と増収を図る。

[技術の内容・特徴]

1. 4月28日移植、移植密度20.8株/m<sup>2</sup>、窒素施肥量(10aあたり)を基肥7kg、穂肥1(幼穂形成期)3.5kg、穂肥2(幼穂形成期から10日後)3.5kgで栽培した成績である。
2. 移植時期の違い(5/2,5/12,5/22)による出穂日の変動は極早生・早生の品種で10~15日、晩生の品種で4~6日であり(図1)、中国飼198号は出穂しない。
3. 倒伏程度(無0~甚5)は「北陸193号」と「リーフスター」が0、「はまさり」が1.0である(表1)。
4. 黄熟期の乾物収量(t/10a)は「クサノホシ」が最も高く2.4tで、次いで「北陸193号」と「リーフスター」が2.1tである(図2)。
5. 各品種の黄熟期における単少糖含量は乾物中1.0~5.6%で10品種中最も高いのは「中国飼198号」で、次いで「はまさり」である(図3)。
6. 飼料イネ新鮮物中の単少糖含量と密封パウチ法によるサイレージ調製後のV2—スコアには高い相関( $r=0.8899$ 、 $p<0.01$ )がある(図4)。

[技術の活用面・留意点]

1. 品種特性を考慮した飼料イネの収穫・調製時の参考となる。
2. 単年度の栽培試験によって得られた分析結果である。
3. 落下種子による食用イネへの混入対策には移植栽培と、プレチラクロールやブタクロールを含む初期除草剤の散布が有効。

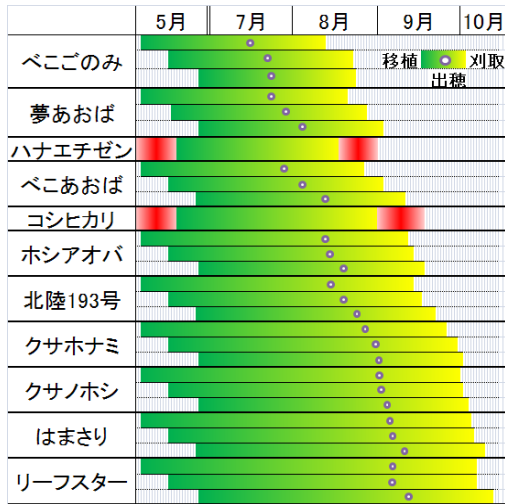
[普及計画]

普及目標：飼料イネ栽培面積100ha以上

普及対象：コントラクター組織4団体

普及に向けた対応：技術のPRと普及指導推進

[具体的データ]



※ハナエチゼン、コシヒカリは参考

図1 移植時期別の出穂期と収穫適期

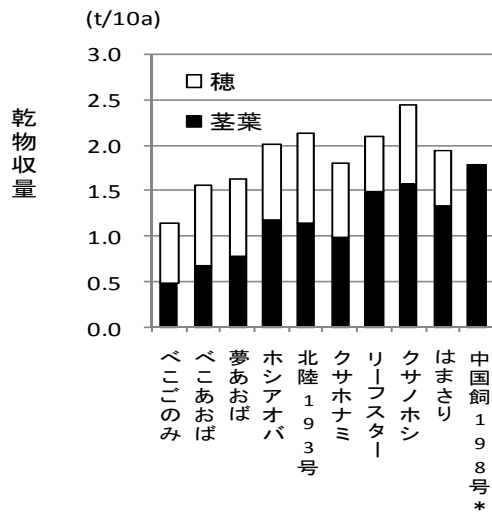


図2 黄熟期の乾物収量 \* : 出穂前

表1 倒伏程度

品種	倒伏 (0~5)
べごごのみ	2.0
べこあおば	1.5
夢あおば	3.0
ホシアオバ	4.0
北陸193号	0.0
クサホナミ	4.0
リーフスター	0.0
クサノホシ	4.0
はまさり	1.0
中国飼198号	1.5

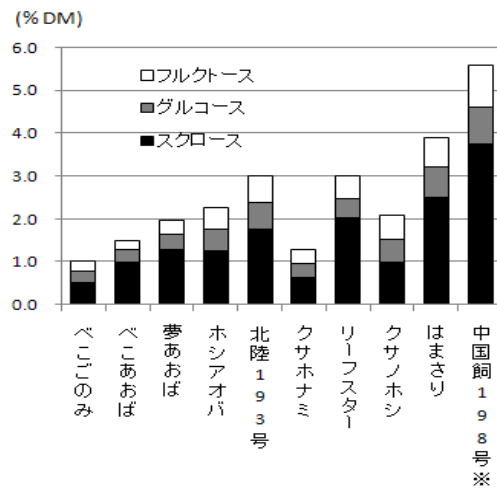


図3 黄熟期の単少糖含量 ※ : 出穂前

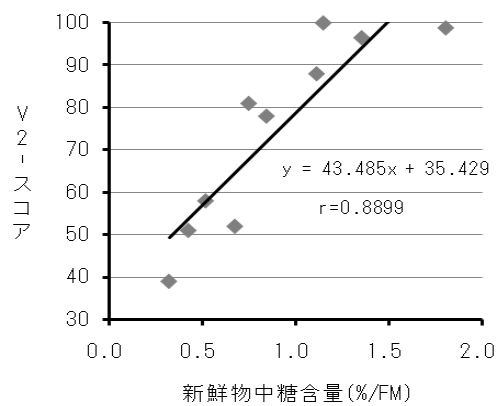


図4 単少糖含量とサイレージ発酵品質の関係

[その他]

研究課題名 : 稲発酵粗飼料の品質向上・増収技術の開発

研究期間 : 2009~2011年度

研究担当者 : 山田真吾、村田文彦